

魂問答！

校長 高橋 祐二

雪のない新年を迎えました。1月も中旬を過ぎたのに、雪景色ではない新潟の冬は、これまで経験がありません。やはり、四季折々の季節感というものは、大切かな？と思える昨今です。

さて、2学期、学校評価にて保護者の皆様から、本校の教育活動に対し様々なご意見をいただきました。今後、職員間のみならず、保護者や地域の方々とも議論を重ね、よりよい教育活動の実施に向け検討していきたいと考えています。

保護者の学校評価を見てみると、保護者の願う子ども像は、「思いやりのある子であって欲しい」「人に心配や迷惑をかけない子であって欲しい」というような意見が一番多かったです。この願いは、いつの時代においても不変であると感じています。そして、私も同感です。

そんな中、この正月、家でゴロゴロしているとネットで、「魂問答」という本に出会いました。（光文社、清原和博・鈴木泰堂 著者）著者の一人である清原和博氏を知らない方はおられませんね！PL学園出身の元プロ野球選手です。これまで、野球選手として野球史に残る大活躍をしたものの、現役を退いた後、世間を騒がすこととなりました。清原氏は、2016年2月、覚醒剤取締法違反の容疑で逮捕、懲役2年6か月、執行猶予4年の有罪判決を受けました。その清原氏が、沈黙を破り全てを告白したのです。なぜ覚醒剤に手を染めてしまったのか。そして今、目標とすべきことはどんなことか。罪を悔いながら薬物依存、うつ病とたたかう日々。最愛の母の死。離別した子どもたちへの思い。清原氏が、最も信頼する僧侶、鈴木泰堂氏（神奈川県藤沢市、法華山示現寺住職）との対話から生きる意味を考えさせられる一冊でした。

清原氏は、覚醒剤という薬物に手を染めてしまいました。人間として、絶対やってはいけないことは言うまでもありません。本人が、一番自覚していることかもしれませんが、更正するには並大抵のことではできないようです。本人の自覚と努力だけでは、更正は難しいようです。そこで、鈴木氏は、本の中で読者に次のような呼びかけをしています。

人は皆、等しく罪障（ざいしょう）を抱えた存在なのだというお釈迦様の教えに則り、いま少しだけ、ほんの少しだけでも寛容な気持ちを持って清原さんや、清原さんと同じように薬物の誘惑に負けてしまった人を見てあげて欲しい。受け入れてあげて欲しいのです。

.....

魔物に勝利するためには、周囲の人たちの手助けと、その再出発を受け入れてくれる世間の理解が、間違いなく必要なのだということを、どうか皆さんの心の片隅にでも、思い留めて欲しいのです。

私は、この本を通し、子どもたちを育てていく中で、鈴木氏が呼びかけている姿勢や気持ちを大人も、そして子どもたち同士も持つことが大切ではないかと感じたのです。新年を迎え、これからも子どもたちは、様々な活動を行い、経験を積み重ね成長していきます。そんな中で、時として間違いを起こしたり人を傷つけたりしてしまうことがあるかもしれません。思いやりの心を育み、間違いを起こさない子どもを育てることも大切ですが、鈴木氏が述べるように、人は罪障を抱えている。ですから、もし間違いを犯してしまったとき、親や教師、そしてまわりの大人が親身になって寄り添い、二度と間違いを起こさないよう諭したり、考えさせたりすることが必要ではないでしょうか？そして、「決して見捨てない。私は、いつも、あなたのことを心配しているよ。人は、自分一人で生きていくんじゃあないよ。」というメッセージを子どもたちに届けていくことが大切だと感じた新年でした。

保護者、地域の皆様におかれましては、今年も「つながり」を大切にしながら、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。